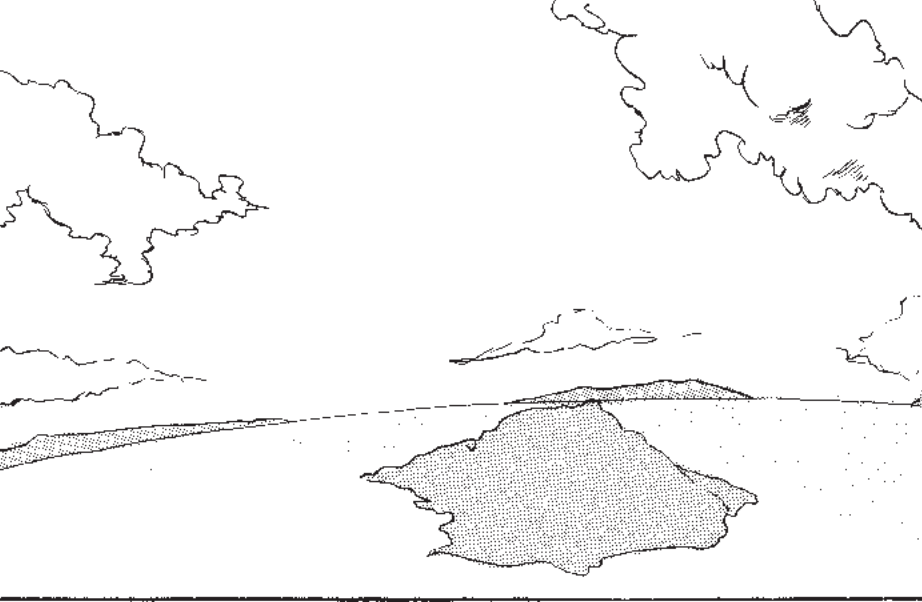


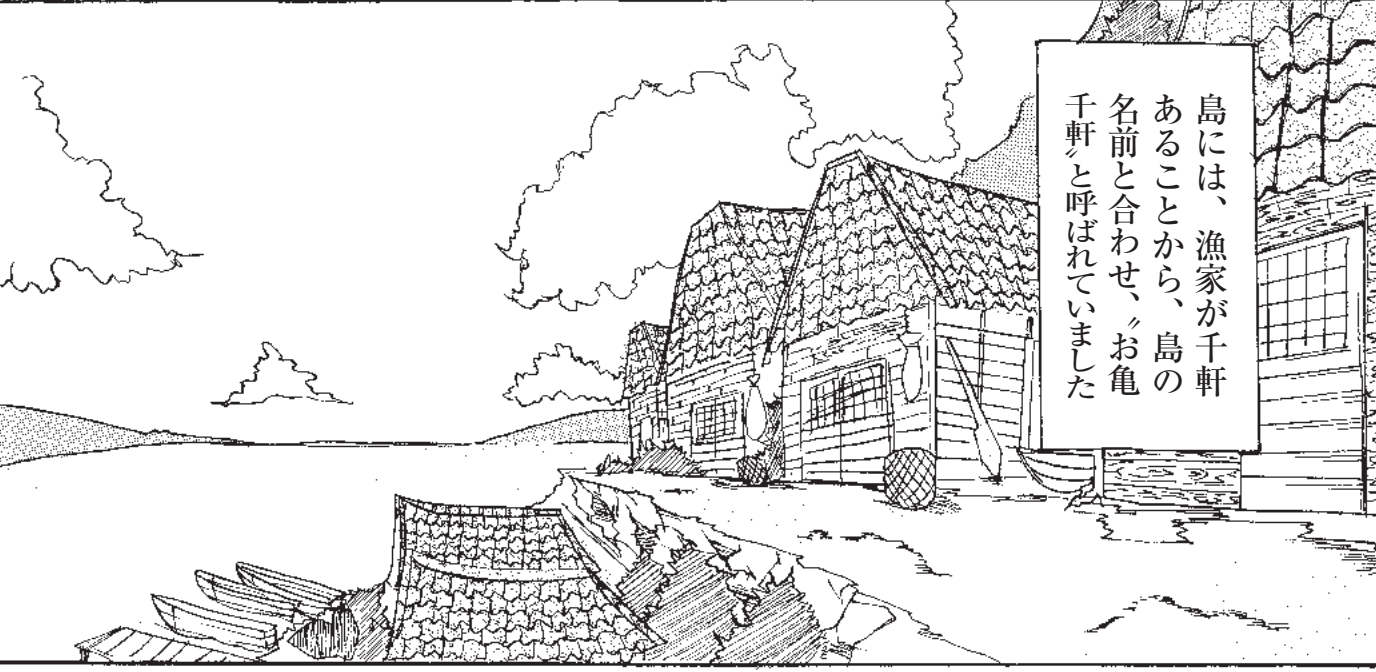
◆ 四国防災八十八話 第十四話より

『お亀千軒』

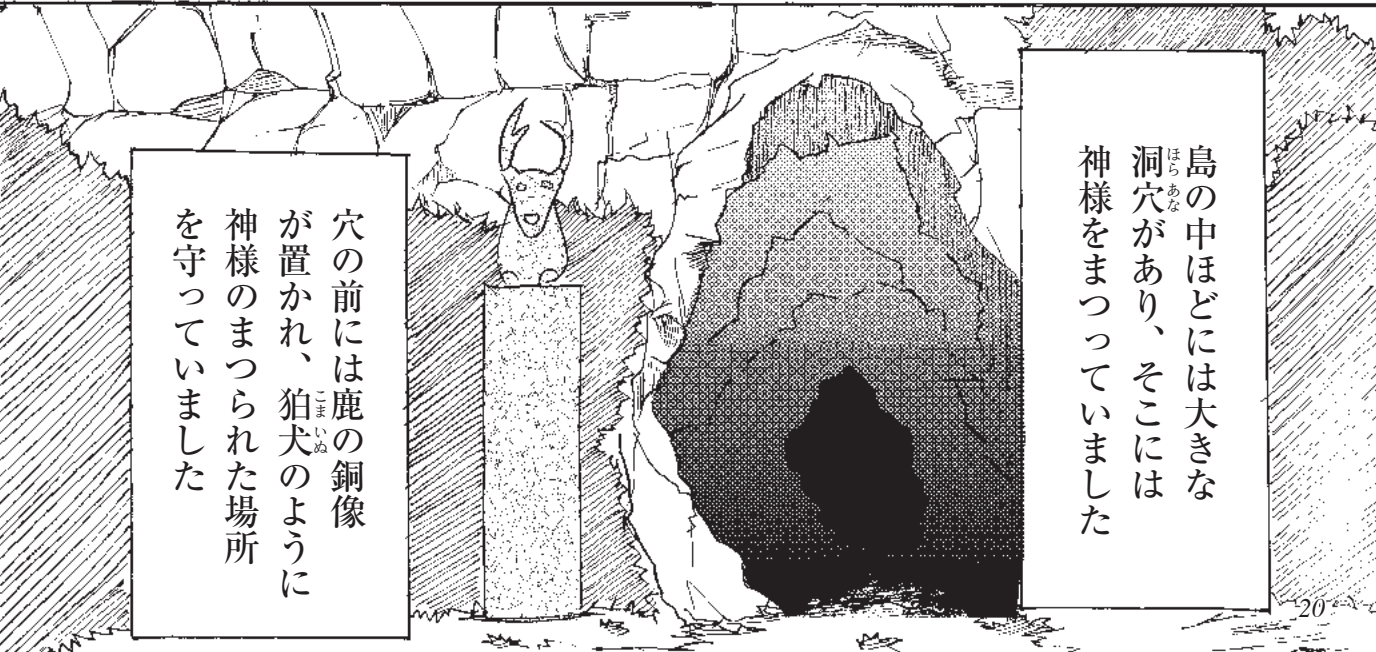
教訓..昔の伝承を知り前兆があれば、すみやかに避難すること



昔、徳島の津田という
所から約四キロ沖に
亀島という小島が
浮かんでいました

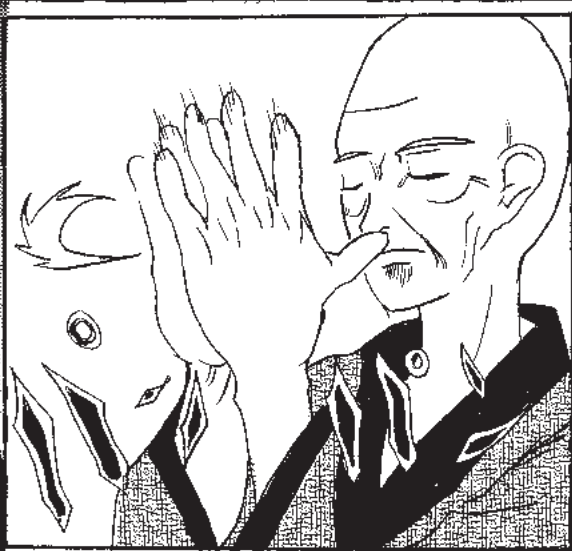
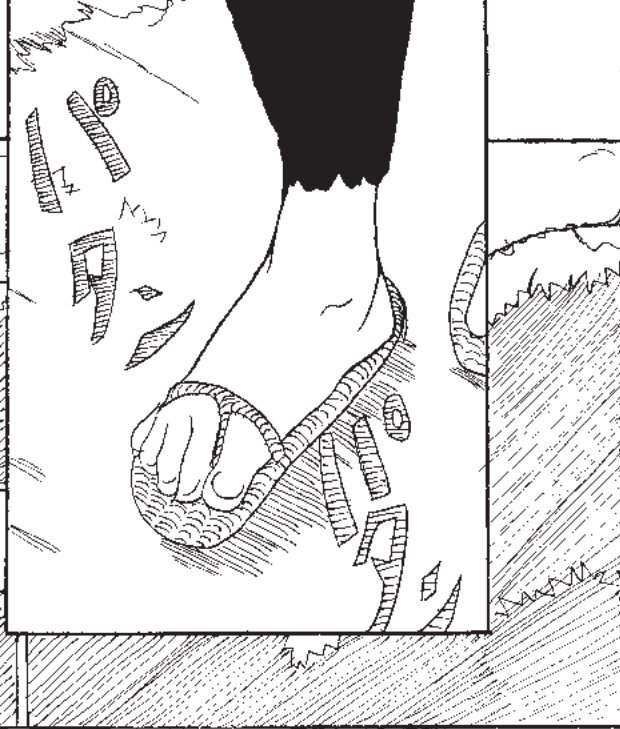
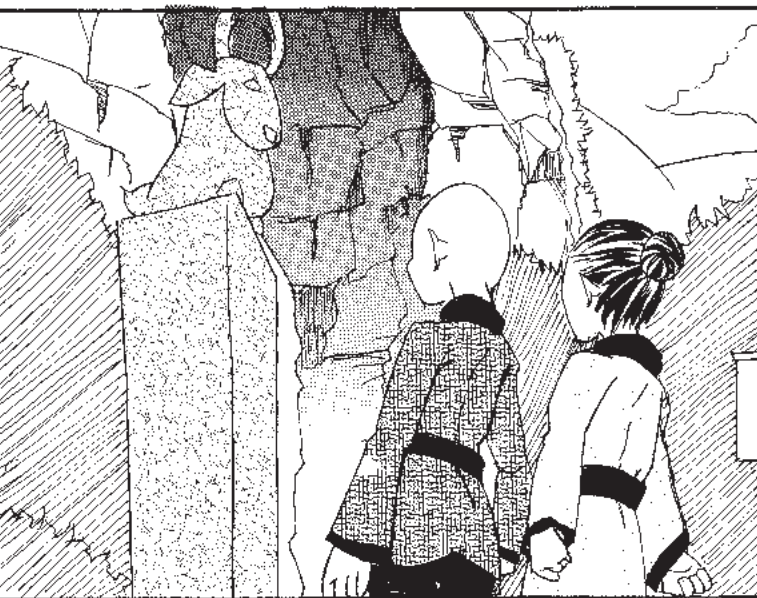


島には、漁家が千軒
あることから、島の
名前と合わせ、お亀
千軒と呼ばれていました



島の中ほどには大きな
洞穴ほらあながあり、そこには
神様をまつっていました

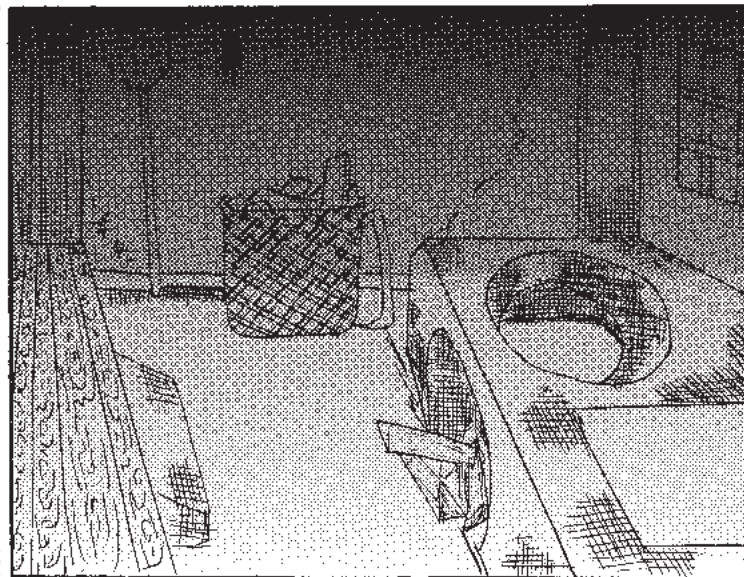
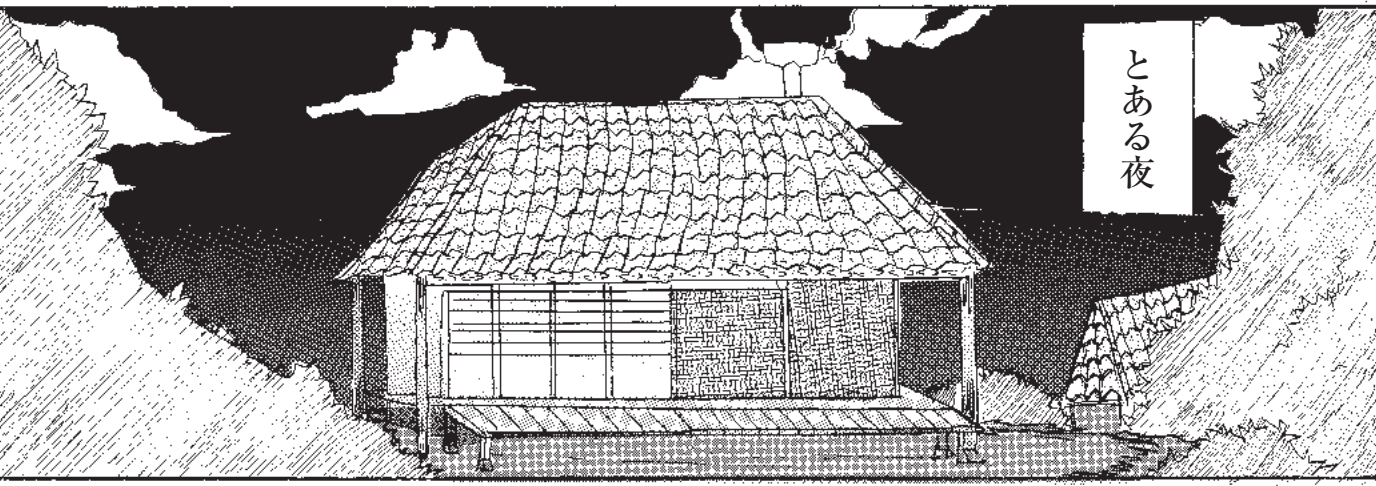
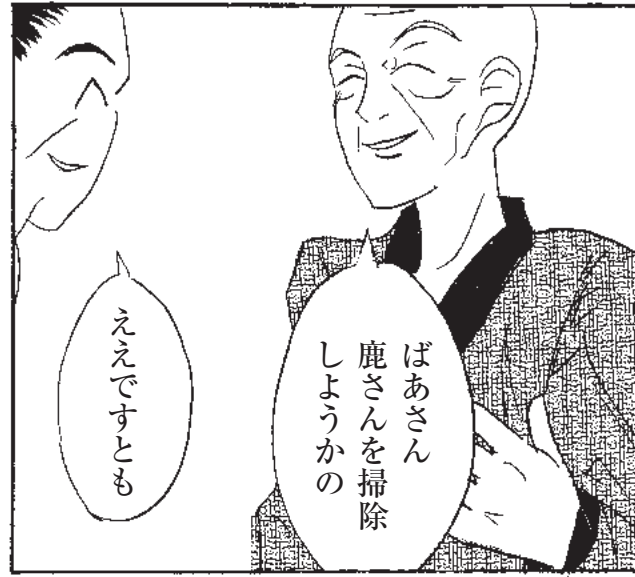
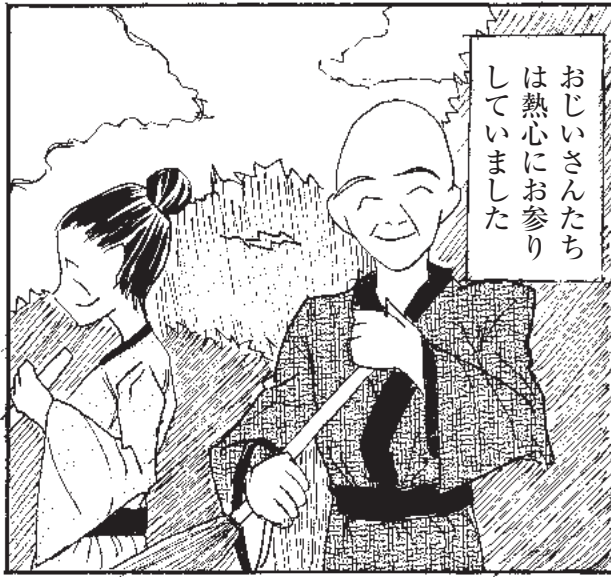
穴の前には鹿の銅像
が置かれ、狛犬こまいぬのように
神様のまつられた場所
を守っていました

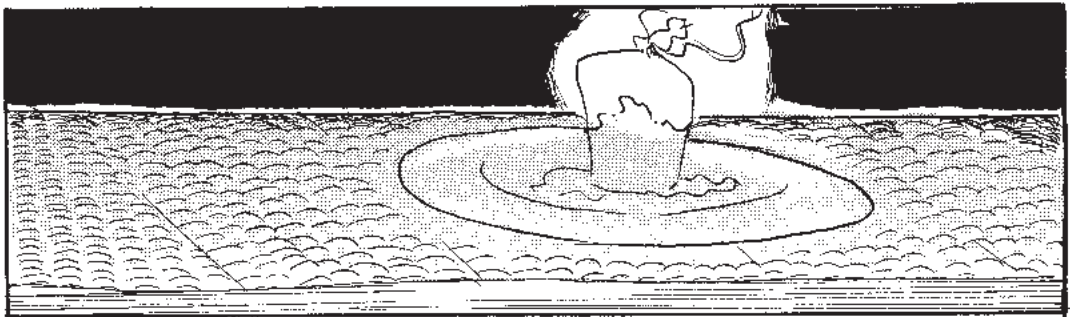
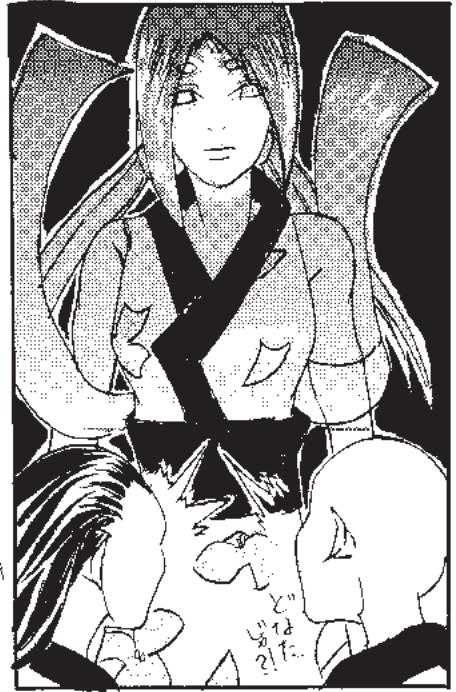
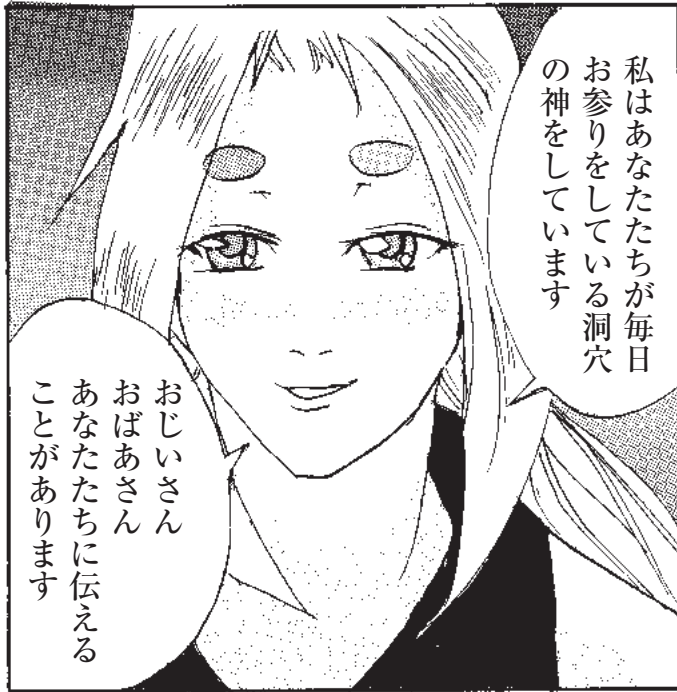


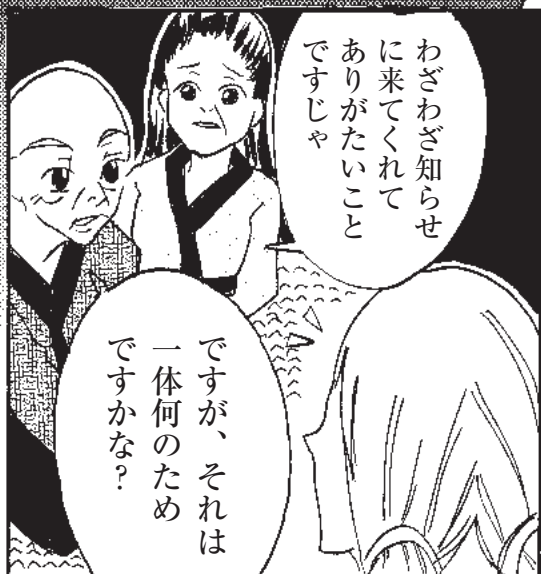
鹿さんや
いつもほこらを
守ってくれてありがとう

わたしたちが
こうして平和に
暮らせるのも

あなたが神様を
守ってくれてる
からじゃ







わざわざ知らせ
に来てくれて
ありがたいこと
ですじゃ

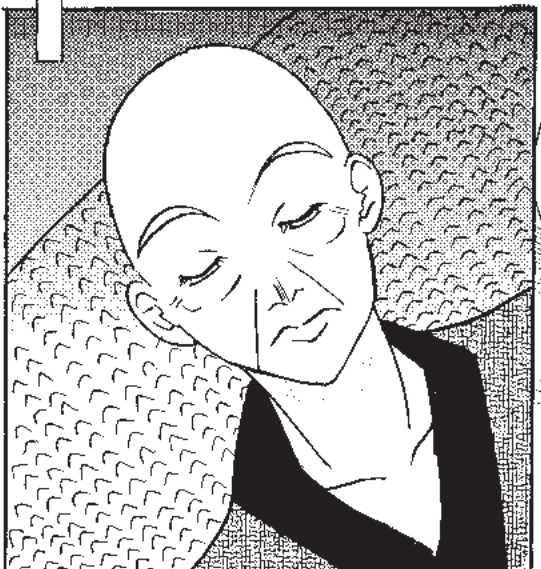
ですが、それは
一体何のため
ですかな？



鹿の顔が
赤くなったら

この島が
沈んでしまう
前兆です

急いで
立ち去る
のです

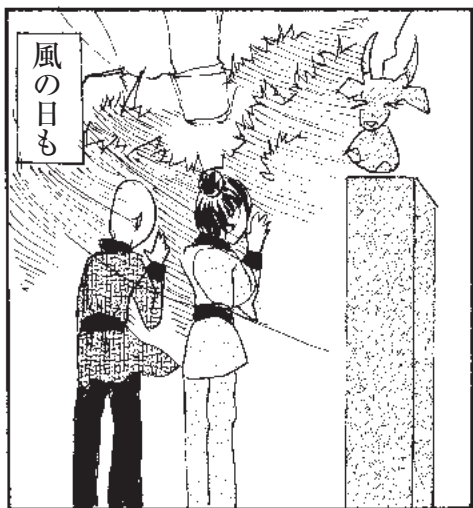
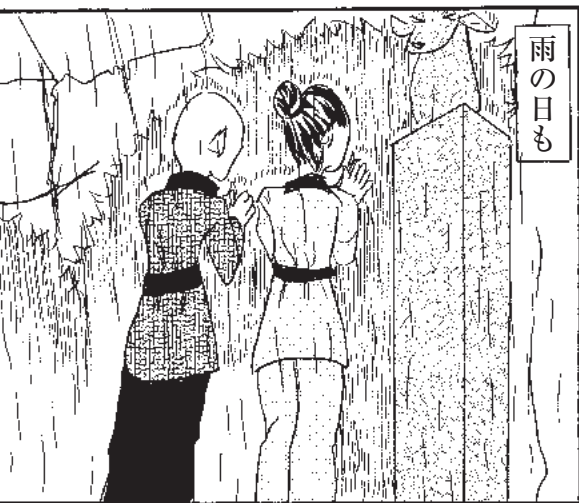


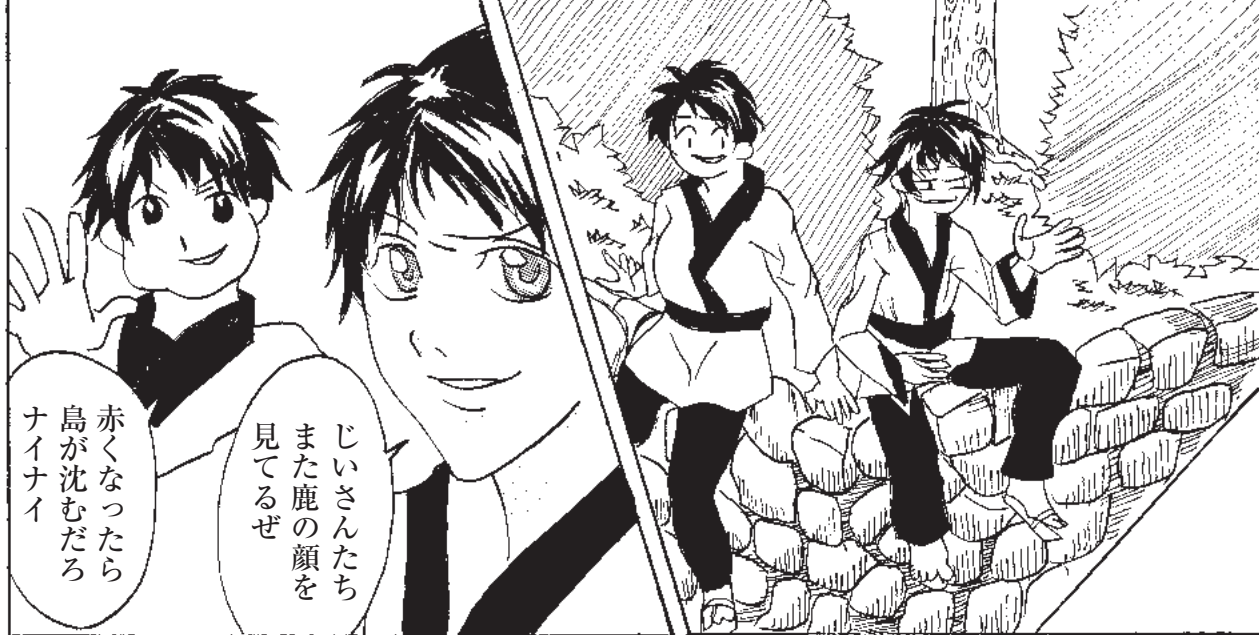
あなたたちが
私のもとを
訪ねるとき

これからは必ず
入口に置いてある
鹿の顔を見なさい

もしも鹿の顔が
赤くなるものが
あるならば、

一刻も早く
この島を
立ち去るのです





赤くなったら
島が沈むだろ
ナイナイ

じいさんたち
また鹿の顔を
見てるぜ



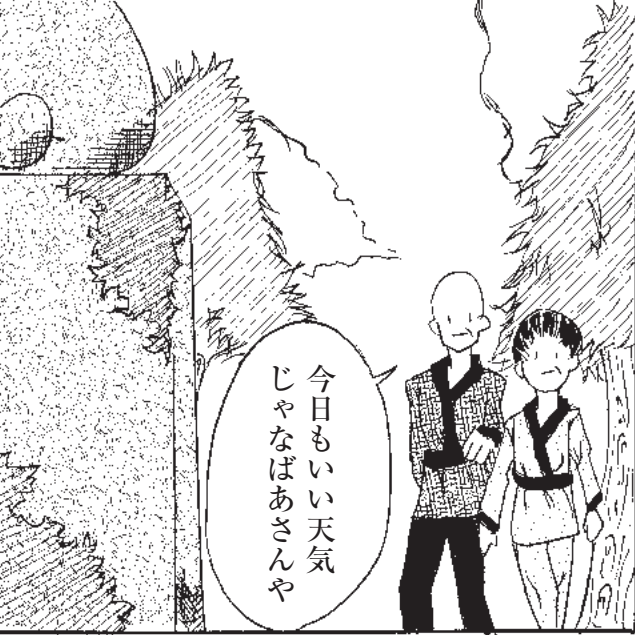
よおし今夜
あたりイタズラ
してみるか



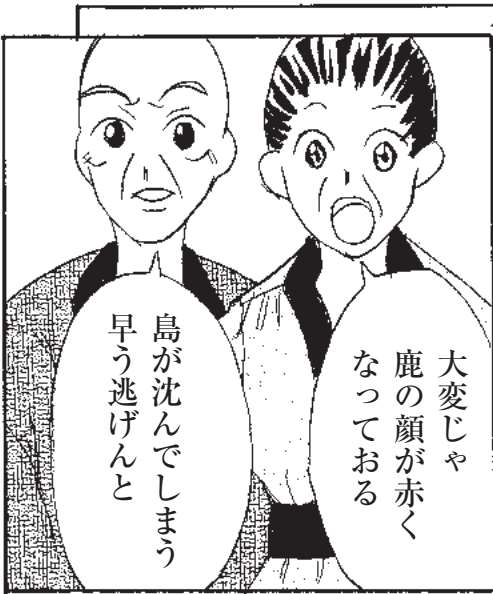
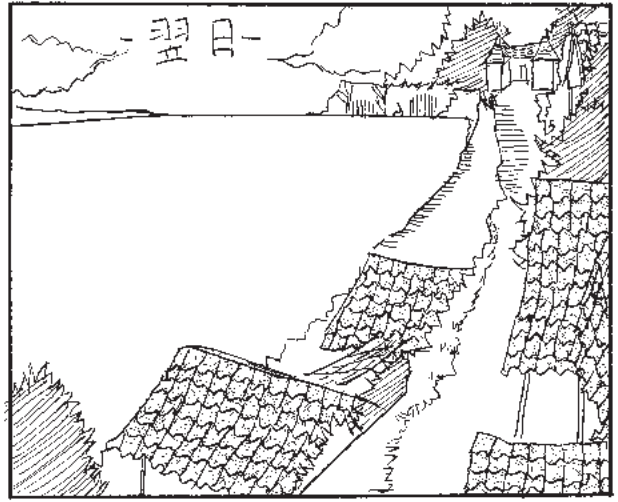
どうだ

じいさんたち
おどろ
驚くだろうな



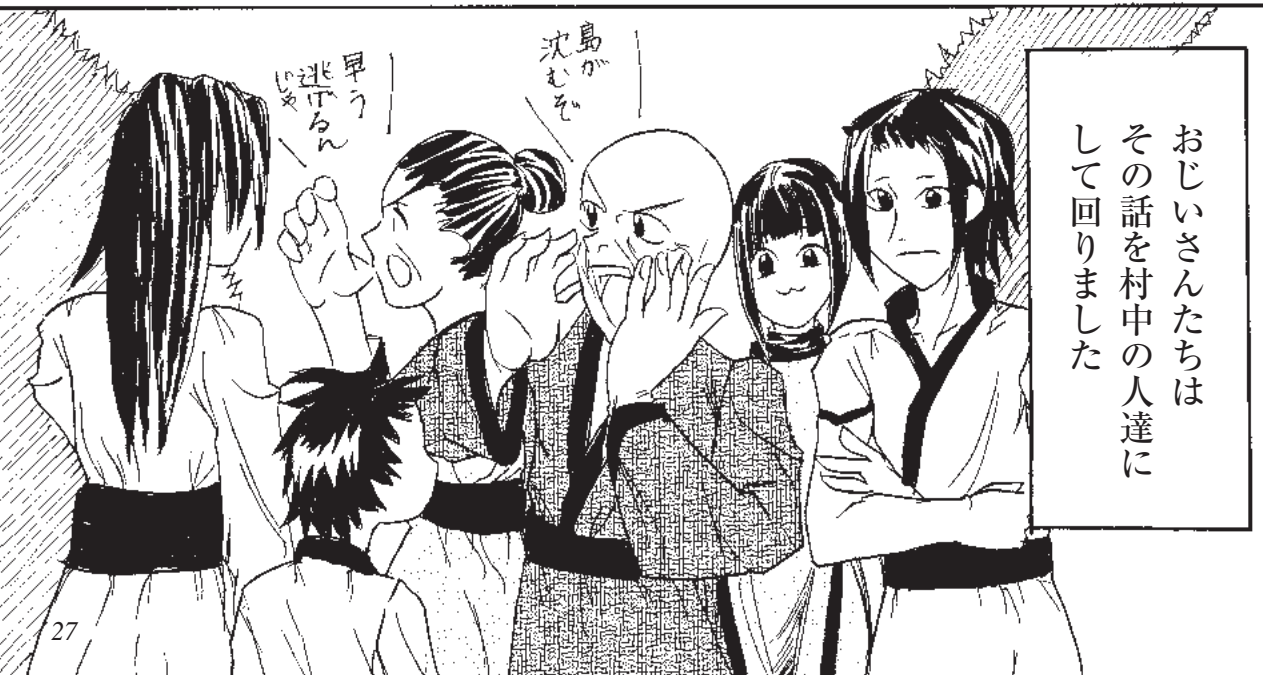
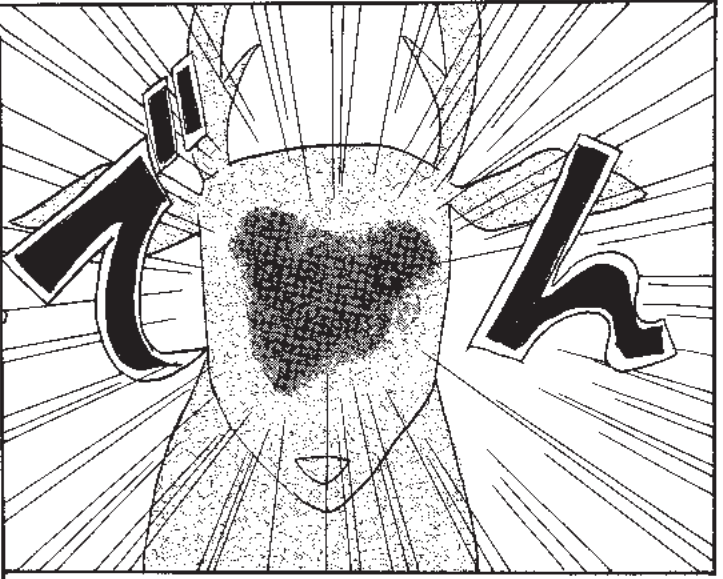


今日もいい天気
じゃなばあさんや

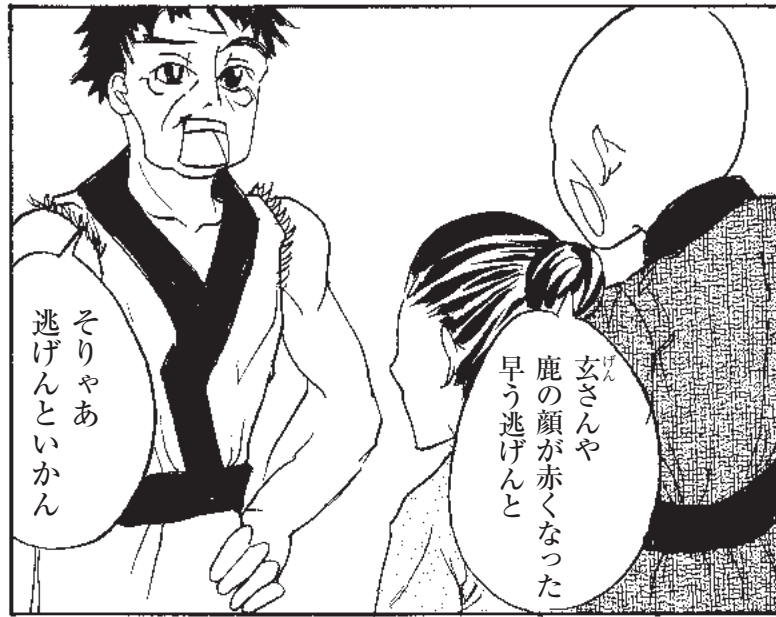
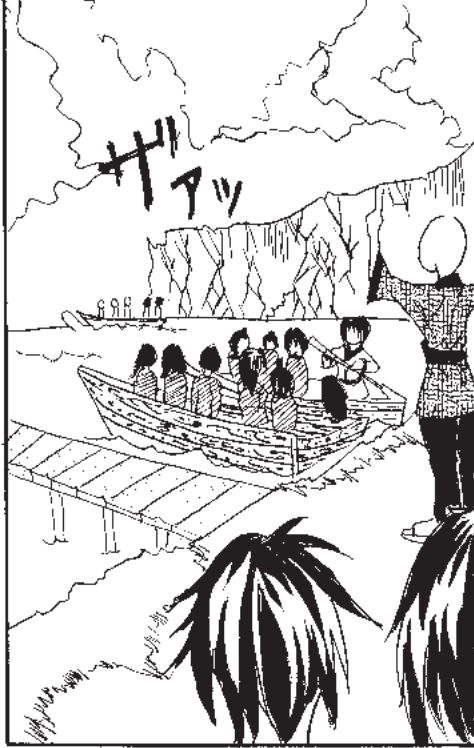


島が沈んでしまう
早う逃げんと

大変じゃ
鹿の顔が赤く
なっておる

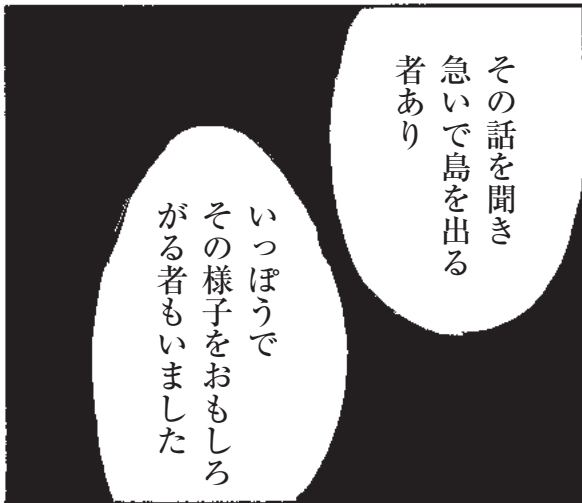


おじいさんたちは
その話を村中の人達に
して回りました



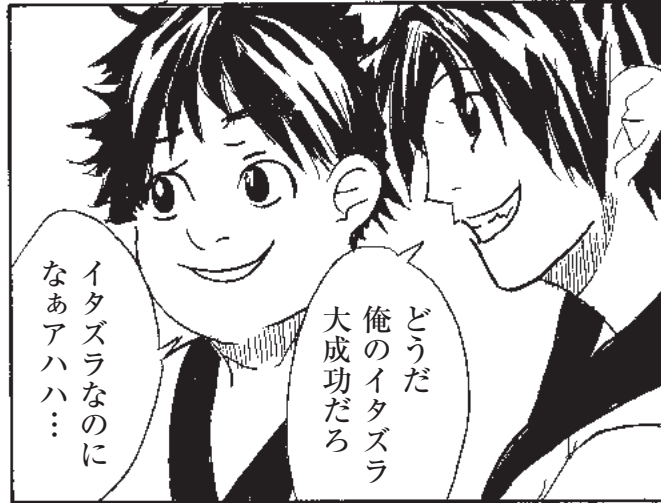
そりゃあ
逃げんといかん

げん
玄さんや
鹿の顔が赤くなった
早う逃げんと



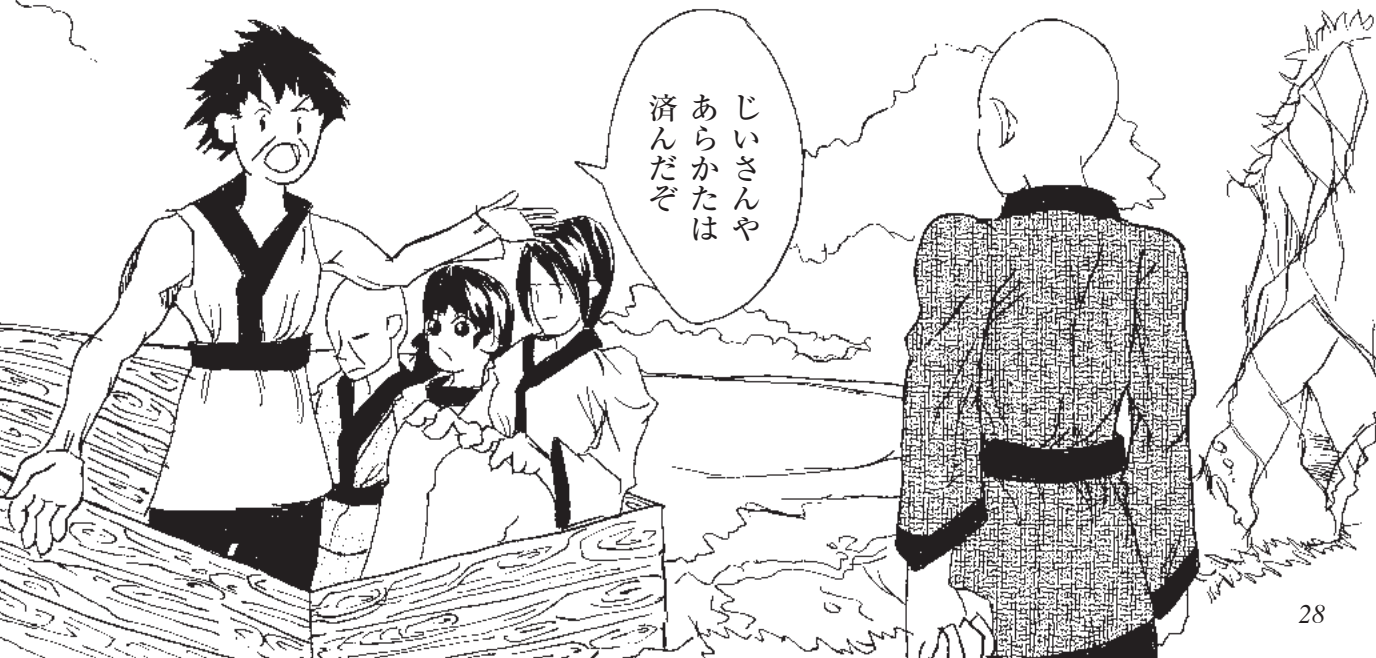
その話を聞き
急いで島を出る
者あり

いっぽうで
その様子をおもしろ
がる者もいました

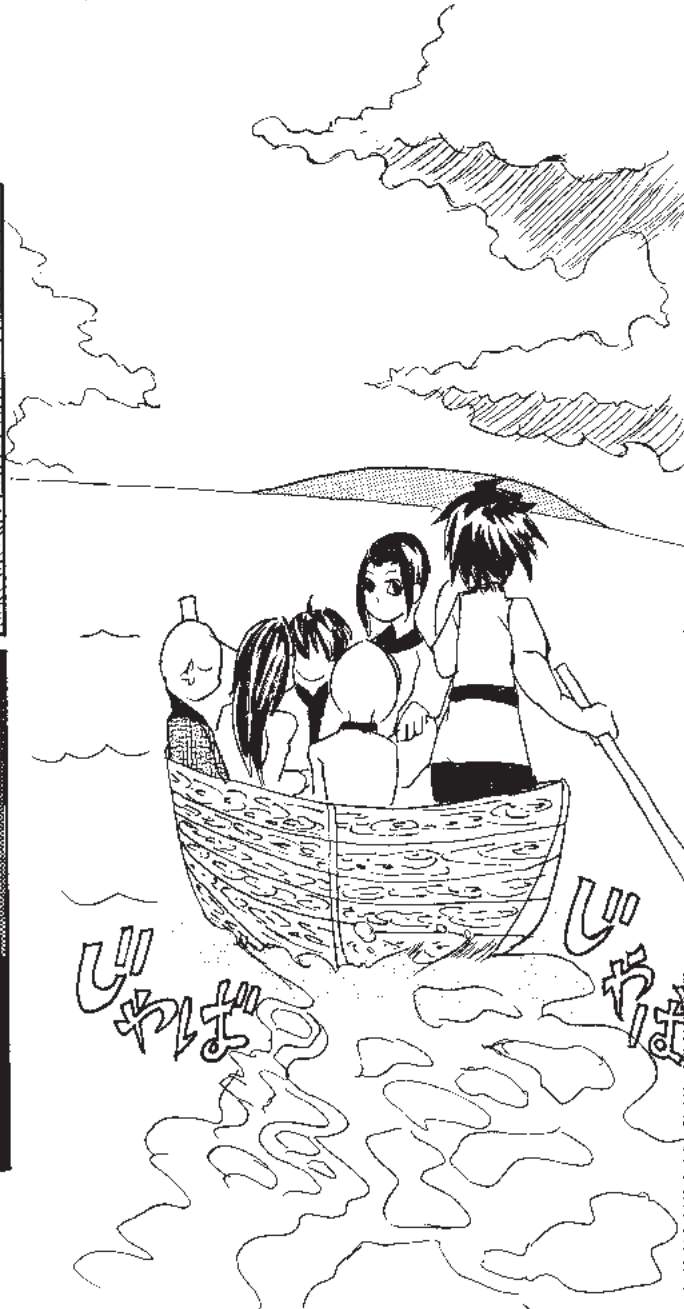
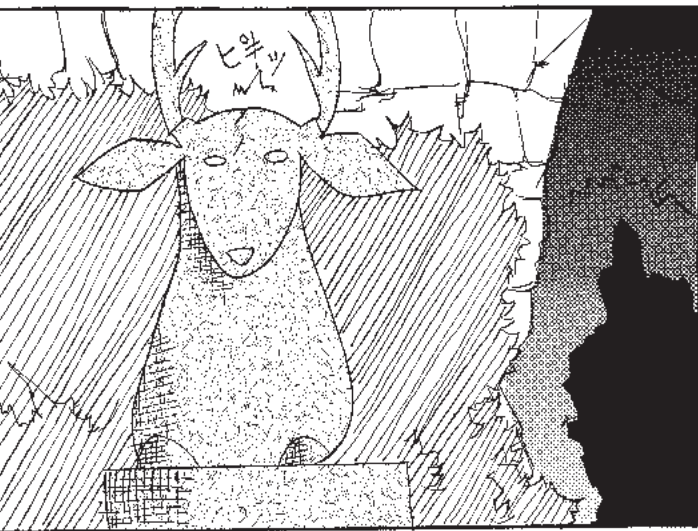
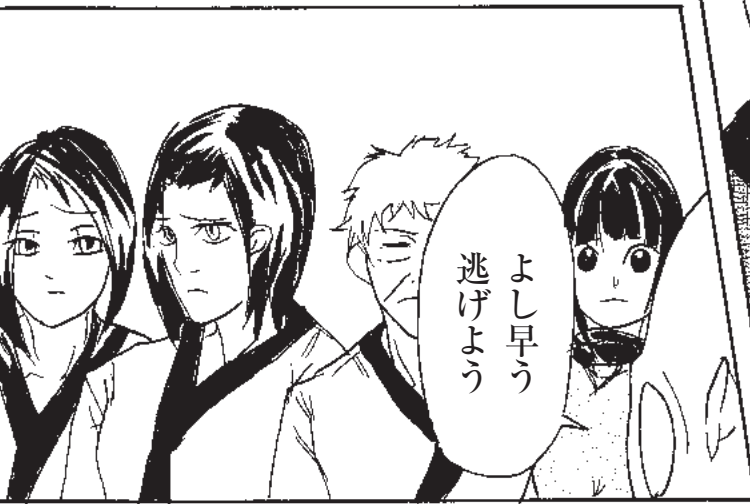


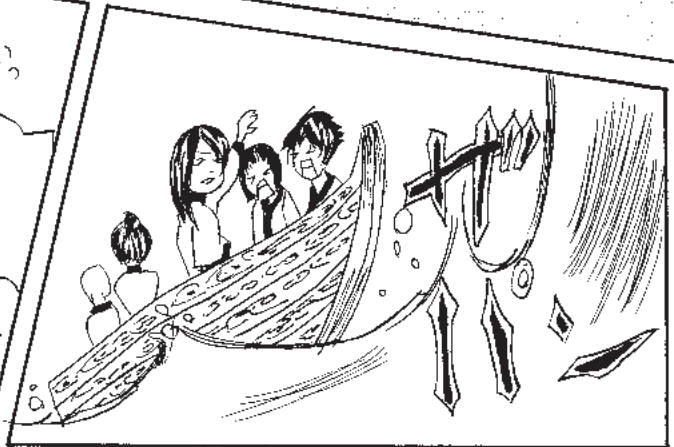
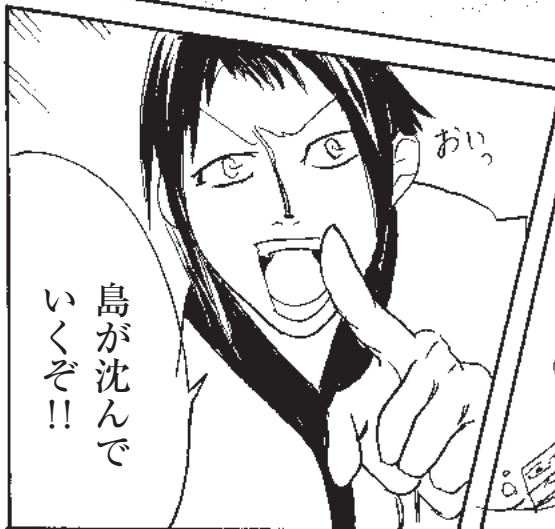
イタズラなのに
なあアハハ…

どうだ
俺のイタズラ
大成功だろ



じいさんや
あらかたは
済んだぞ





神様の言った
通りになったのう

